



新年を迎えて



一般財団法人日本ITU協会
理事長

よしだ ひろし
吉田 博史

謹んで新春のお喜びを申し上げます。

2024年は、元旦に能登半島地震が発生し、甚大な被害が出ました。今なお続く現地の復興と穏やかな生活の回復を願います。また、1月2日には羽田での航空機事故があり、技術の粋を集めたシステムも予期せぬ事態が発生するという事、何よりも安全性が最優先となることを強く認識しました。

世界に目を向けると、パリ五輪が開催される一方で、ロシアによるウクライナ侵略が長期化するとともに、中東における紛争も激化し、紛争解決、平和な社会に向けた動きが問われる一年となりました。人々の英知を基に、平和を求める歩みを続けることが求められています。

2024年の当協会に関わる国際電気通信連合 (ITU) 関連の会合を振り返りますと、9月2日～9月10日に、東京・大手町で、今会期最後となるITU-T SG9会合が開催され、約90名が参集し、各課題が審議されました。最終日には10月のWTSA-24における当SG9とSG16の統合を見据えた合同ワークショップが実施されました。

10月15日から10月24日には、インドのニューデリーにて、世界電気通信標準化総会WTSA-24が開催され、我が国から提案していたSGの統合 (SG9+SG16) が合意され、SG21が設立されました。また、日本からは1名の議長、7名の副議長が任命されました。今後の皆様のご活躍をお祈りしています。当協会では、これら2つの会合で事務局支援を行いました。

また、ICT関連のイベントとしては、12月2日～6日、東京・竹芝にて「世界銀行」として世界に先駆けて初めてのデジタルアカデミーが開催され、約80名が参集し、アジア太平洋地域が抱えるテーマに基づいたセッションに対して、講義や議論、また、テクニカル・ビジットが行われました。当協会は初めて同会合を支援しました。

当協会の行事では、5月17日に例年どおり「世界情報社

会・電気通信日のつどい式典」を京王プラザホテルにて開催しました。式典ではITU-R SG6副議長 (2007年～15年)、議長 (2015年～23年) を長期にわたり務め、放送の将来を見据えた放送技術の国際標準化に貢献をした西田幸博氏 (NHK) が総務大臣賞を受賞されました。また、医療分野 (外科) へのICT技術の活用に取り組み、最近ではXR/VR/AR/MR技術を外科手術に応用することを積極的に進めている杉本真樹氏 (Holoeyes (株)、帝京大学) が特別賞を受賞され、記念講演を行いました。さらに、8名1団体が功績賞を、15名が奨励賞を受賞されました。誠にありがとうございます。

研修関連としては、10月24日から11月1日にかけて、東京・新宿にて、デジタルディバイド解消に向けたネットワーク計画に関するAPT研修の事務局として、9か国・13名の研修生を受け入れました。

2025年のITU関連会合については、6月～7月にかけて、ITU-R WP5D会合が神戸で開催されます。また11月にはアゼルバイジャンのバクーで世界標準化開発会議WTDC-25が開催されます。当協会は、これまでの経験を基に、ITUやAPTの会合やイベントに関して、関係者各位と協力しながら、積極的に対応してまいります。

また、3月には、スペインのバルセロナでMobile World Congress (MWC-25) が開催され、当協会はパビリオン出展を行う日本企業をサポートする予定です。

当協会関連としては、2020年から実施しているデジタル海外展開プラットフォーム業務の支援を本年も継続したいと考えております。また、オンライン月刊誌『ITUジャーナル』や英文季刊誌『New Breeze』の発行、有識者を講師にお招きしての研究会開催、ITU関連業務に携わる人たちが横断的に集まるITU会合情報連絡会の開催等を通じ、本年も日本ITU協会が日本政府、賛助会員各位とITU・APTとの交流の場となるよう、更なる努力を続けてまいります。

本年の皆様のご健勝とご活躍を心より祈念いたしまして、新年の挨拶とさせていただきます。



WTSA-24ニューデリー